

地域と考える、くすりと健康
- 高齢者医療費抑制に向けた医薬品適正使用の推進 -

指導教員	金沢大学	教授	菅幸生	教授	嶋田努	准教授	石田奈津子
参加学生	大学院	竹中リナ	八木谷知美				
	6年	浦山睦	瀬山春佳	瀧本悠晴	宮浦茉奈		
	5年	井波楓怜	岸野結衣	前田音羽	吉原和花南		
	4年	伊平誠史	伊藤愛葉	窪野将也	熊倉優依	星野伊音	
		安田果奈					

本活動で実施している「おくすりサロン」は、地域住民の健康を支援する場であると同時に、地域住民と薬学生が交流し、学生の社会性や医療者としての自覚を育む貴重な機会でもあります。

また、本活動の一環として、野々市市の協力のもと国保データベース（KDB）を活用した研究にも取り組んでいます。

本活動にご支援・ご協力を賜りました野々市市役所・野々市市地域包括ケアセンター・子育て支援センターの皆さま、ならびに日頃より当研究室の活動にご理解を賜っている関係者の皆さまに、心より感謝申し上げます。

金沢大学医薬保健研究域薬学系臨床薬学研究室Instagram



KANAZAWAUNIV_RINYAKU

地域と考える、くすりと健康

— 医療費抑制に向けた医薬品適正使用の推進 —

「おくすり」問題

- ◆ 重複投薬や多剤投薬などの問題は、副作用リスクの増加や医療費の増加など、深刻な不利益をもたらす
- ◆ 地域社会において、健康・医療・介護・福祉に関する課題は多い

医薬品の適正使用を推進することで、地域住民の健康をサポートし、健康なまちづくりに寄与することを目指す

今年度は対象を拡大し未就園児の保護者向けにも実施！
→ 多剤投薬や重複投薬への取り組みをより広い範囲に展開した

① 地域活動

- ✓ 野々市市内2カ所において実施、延べ58名（12月末現在）が参加！
- ✓ 2022年度から活動開始し、本年度をもって市内全域を巡回することができました！



学生によるおくすり〇×クイズで楽しく学べる環境を！



- ✓ さらに初の試みとして、未就園児の保護者向けにも開催しました！！



子育て中のお母さんの身近な薬の疑問にお答えしました！



- ✓ 野々市市職員の方々と、意見交換会を行いました！

- 特定健診を受診してもらうために、どのようなことができるかなどについてお話ししました



野々市市
×
金沢大学



② 研究活動

✓ 野々市市国保データベース（KDB）

国民健康保険、後期高齢者医療、介護保険、特定健診などに関する情報を含む大規模データベース

地域の健康・医療・介護・福祉に関する課題は多い...

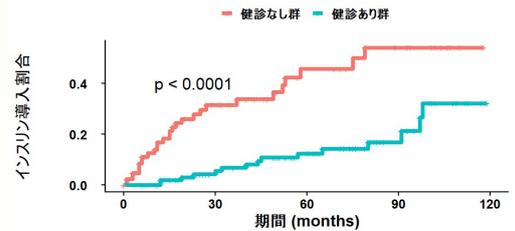
KDBデータの解析により...

野々市市が抱える健康課題に対して具体的な解決策を提案！

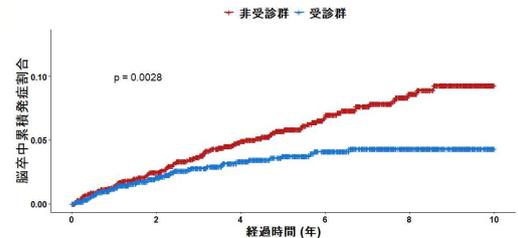


< 特定健診は疾病の重症化予防に有効か？ >

Case 1. 健診未受診の糖尿病患者はインスリンの導入が早くなってしまおう！



Case 2. 健診未受診の高血圧患者は脳卒中発症までの期間が短い！



- ◆ 健診が病気の重症化予防に有効な可能性

今後はさらなる健康課題を明らかに！

今後の目標

- ① おくすりサロンをブラッシュアップして開催
地域住民の医薬品適正使用に関する意識向上
- ② KDBデータを活用した研究の発展
 - 解析結果をおくすりサロンにフィードバック
 - 地域の保健事業や行政政策に活用
 → 持続可能な健康づくりの体制を構築する

金沢大学医薬保健研究域薬学系 臨床薬学研究室

担当教員：菅 幸生，嶋田 努，石田 奈津子

担当学生：竹中 リナ，八木谷 知美，浦山 睦，瀬山 春佳，瀧本 悠晴，
宮浦 茉奈，井波 楓怜，岸野 結衣，前田 音羽，吉原 和花南，
伊平 誠史，伊藤 愛葉，窪野 将也，熊倉 優衣，星野 伊音，安田 果奈



1. 活動の要約

本活動は、地域住民を対象とした「おくすりサロン」と、国保データベース（KDB）を活用した研究活動を通じて、医薬品の適正使用および健康意識の向上を図ることを目的として実施した。地域活動としては、ゼミ学生が中心となり、高齢者および未就園児の保護者を対象としたおくすりサロンを開催し、薬に関する基本的な知識を分かりやすく伝えるとともに、参加者との交流や個別相談を通じて身近な疑問への対応を行った。あわせて、KDB データを用いた分析を進め、地域の健康課題をデータに基づいて把握する取組を行った。これらの活動を通じて、地域活動と研究活動を相互に連携させながら、ライフステージに応じた健康意識の醸成に向けた取組を推進した。

2. 活動の目的

近年、国民医療費の増加が全国的な課題となる中で、各地域においても住民一人ひとりの健康維持・増進と、持続可能な社会保障制度の構築が強く求められている。本活動のフィールドである野々市市は、医療機関へのアクセスが良好で利便性が高い一方、複数の医療機関を受診する住民も多く、多剤併用や重複投薬のリスク管理が重要となっている。そのため、世代を問わず医薬品との適切な付き合い方に関する理解を深め、薬を正しく使う意識を地域全体で高める必要がある。本活動は、「おくすりサロン」を通じて医薬品の適正使用や自己管理に関する知識を分かりやすく伝え、住民が自身の健康について主体的に考える機会を提供することを目的とする。本年度は特に、これまで活動の中心であった高齢者層に加え、次世代の健康管理を担う若い世代（未就園児の保護者等）にも対象を広げ、ライフステージに応じた啓発活動を展開した。さらに、行政の協力により提供を受けた KDB を活用した分析を行うことで、地域の健康課題を客観的・統計的に把握することを目指した。その分析結果を地域活動の内容へ反映させることで、エビデンスに基づいた健康寿命の延伸および将来を見据えた地域づくりに資することを目的としている。

3. 活動の内容

【地域活動】

■ 高齢者を対象としたおくすりサロン

市内地域サロンにおいて、2022 年度より継続している活動を実施した。学生が中心となり、薬に関する〇×クイズや交流会を通じた情報提供を行った。あわせて教員が、多剤・重複投薬のリスクやお薬手帳の重要性について講話を行い、個別相談により服薬上の不安解消を図った。

■ 未就園児の保護者を対象としたおくすりサロン

新たな取組として、野々市市の子育て支援センターの協力のもと、未就園児の保護者を対象とした「おくすりサロン」を実施した。本取組は、これまで高齢者を主な対象としてきた活動を若い世代へと広げるものである。サロンでは、ゼミ学生が参加者と交流しながら「おくすり〇×クイズ」を行い、子どもの薬に関する基本的な知識を楽しみながら学べる場を提供した。あわせて、教員が子どもの医薬品の適切な使用方法を中心に、薬の飲ませ方や注意点、家庭における薬の管理方法等について講話を行った。また、個別相談の時間も確保し、子育ての中で生じる服薬の不安や疑問に対する助言を行った。

【研究活動】

野々市市の協力のもと、KDB を活用した研究活動を実施した。KDB は、国民健康保険・後期高齢者医療、介護保険、特定健診等に関する情報を含むデータベースであり、市町村における保健事業の企画・実施を支援することを目的としている。本年度は、昨年度に整備した解析体制を基に、本格的なデータ解析に着手した。具体的には、多剤投薬の実態把握に加え、糖尿病重症化予防および特定健診に関連する項目について分析を進めている。本研究を通じて、地域住民の健康課題を客観的に把握し、今後の地域活動や保健事業に活用可能な知見の整理を行っている。

4. 活動の成果

【地域活動】

高齢者対象の「おくすりサロン」は、市内の地域サロン2か所において実施し、延べ58名の参加を得た。2022年度から3年にわたり本活動を継続してきたことで、本年度をもって市内全域の高齢者サロンを巡回する第1期の取組みを完了することができた。また、新たな取組みである未就園児の保護者対象サロン（11月実施）には、10組の親子が参加した。これまで高齢者に偏りがちであった活動を若い世代へ接続できたことは大きな成果であり、次世代に向けた健康意識醸成の足掛かりとなった。なお、1月には別の会場での追加開催を予定しており、さらなるニーズの把握に努める。

【研究活動】

本年度はKDBデータを用い、特定健診の受診有無がその後の疾病進行等に与える影響を検討した。解析の結果、以下の知見が得られた。

- 糖尿病患者：特定健診受診群は、非受診群と比較してインスリン治療へ移行するまでの期間が長い傾向が確認された。
- 高血圧患者：特定健診受診群において、脳卒中の発症を抑制、あるいは発症までの期間を延伸させている可能性が示唆された。
- 薬剤数：特定健診受診群では、非受診群と比べて服用薬剤数が少なく、ポリファーマシーの割合が低い傾向が認められた。

これらの成果は、特定健診の受診が疾病の重症化予防および薬剤費の適正化に寄与する可能性を示すものであり、市の保健事業の有効性を客観的に評価する材料として活用可能である。

5. 今後の活動計画

今後は、第1期が完了した高齢者対象のおくすりサロンの知見を総括し、再受講者にも資するより発展的なプログラム（特定の疾患に特化した解説等）の構築を検討する。若い世代対象のサロンについても、本年度の参加者アンケートを基に内容をブラッシュアップし、子育て支援センター等との連携を強化しながら定例的な実施体制を模索する。研究面では、KDBの経時的な追跡分析をさらに進め、地域の健康課題を詳細に可視化する。これらのデータ分析から得られたエビデンスを、サロンでの講話内容や啓発資料の作成にフィードバックさせることで、活動の質をさらに高める。最終的には、研究成果を行政と共有し、野々市市の健康増進計画や特定保健指導等の施策に反映されることを目指し、大学と行政の連携を深化させる。

6. 活動に対する地域からの評価

おくすりサロン参加者を対象にアンケートを実施し、以下のような意見が寄せられた。

■ 高齢者を対象としたおくすりサロン

お薬の話を聞く機会がなかなかない中で、自分自身のためになった。

目薬の使い方やOTC医薬品について知ることができ、参考になった。

〇×クイズが分かりやすく、薬に対する理解が深まった。

災害時に備えて、お薬手帳や予備の薬を持ち歩く意識が高まった。

■ 未就園児の保護者を対象としたおくすりサロン

薬の飲ませ方や保管方法について具体的に聞くことができ、安心できた。

授乳中の薬の選び方について理解が深まった。

クイズ形式で楽しく学ぶことができ、薬に対する誤った認識に気づくことができた。

気になっていた点を直接相談できて良かった。

加えて、子育て支援センター職員からも、活動内容について肯定的な意見が寄せられるとともに、今後も継続的な実施を希望する声が寄せられた。